

# 人は人を浴びて人にぬる

～ふるさと形原を愛する形中生～



卒業式に向けて  
2つの  
新プロジェクト  
始動!

## 桜早咲き

## & ロープ

## コサージュ



春日桜会の市川さん、安藤さんから講習を受ける1・2年 JRC 委員会

3月7日(火)の卒業式に向けて、「桜の早咲き」と「ロープコサージュづくり」という2つのプロジェクトが始動しました。

「桜の早咲き」は、3年生への感謝の気持ちとして、満開の桜を卒業式に飾るというプロジェクトです。

来賓玄関に小さなビニールハウスを設置し、その中で桜の枝を育てています。春日桜会さんに協力をいただき、1・2年生の JRC 委員が約1ヶ月かけて交代で水やりと温度管理をしています。(室温は20℃～25℃、湿度は30%以上を保つ)

桜は繊細なので、卒業式に合わせて咲いてくれるか心配ですが、上手くいくといいですね。

「ロープコサージュづくり」は、3年生が卒業式でつけるコサージュ(胸花)を形原の地場産業のロープで作ることはできないかという発想から生まれました。

くらふとフェア実行委員会さんと産業政策課さん、そして稲葉製綱さんから材料やノウハウを伝授していただき、縁起の良い水引きの「梅結び」(右上写真)でコサージュを作ることにしました。

まず、2月9日(木)に、教職員がくらふとフェア実行委員会さんから梅結びの作り方の講習を受けました。そして、2月20日(月)に2年生が多くの講師さ



くらふとフェア実行委員会の山中さん、山下さん、稲吉さんと産業政策課の吉見さんから教職員が梅結びの作り方を教えてもらっています。



梅結びの説明を聞いています

んに教えられながらロープコサージュを作りました。大変複雑な結び方なので、みんな苦勞していましたが、3年生のために一生懸命作ってくれました。

卒業生のみなさんは、この3年間で形原の魅力にたくさん触れ、好きになってくれたと思います。そして、卒業式は生産量日本一の形原のロープで作ったコサージュを胸に、誇りと自信をもって堂々と巣立って行ってほしいと思います。

2年生が感謝の気持ちを込めて作ったロープコサージュを、3年生が胸につけて卒業していく。そんな姿が形原中卒業式の伝統になるといいですね。(三河湾ネットワーク、中日新聞、東愛知新聞、東日新聞さんが取材に来てくださいました。)



複雑な結びに悪戦苦闘中



簡単にできた子もいます



完成作品を片手に、みんな笑顔です。

# 中1 形原伝統の味「油菓子づくり」



油菓子の成形の仕方を学んでいます

2/20(月)と24(金)の2日間、1年生を対象に形原伝統のお菓子「油菓子づくり」(家庭科)を行いました。

漁師の保存食として誕生した(一説では形原松平の殿様の好物だった)と言われる「油菓子」をつかって、食べることの楽しさを味わうことで、地域や地域のお菓子を好きになってほしいと考えました。また、「油菓子づくり」という地域の伝統を継承していこうとする気持ちが高まることも期待しました。

地元の和菓子屋「栄軒」の稲吉さんに講師をお願いして、生地作り、成形の仕方、揚げ方などを丁寧に教えていただきました。生徒たちは、班で協力しながら、楽しそうに油菓子づくりに挑戦していました。



成形ではひっくり返すのが難しかったです



170℃の油で揚げて完成！美味しそうです